

令和5年度「自己評価報告書」

社会福祉法人愛護会
たんぽぽ保育園

1、保育目標

- 健康で明るい子ども
- 豊かな心を持つ子ども
- 自分のことは、自分でできる子ども
- 他人のことを考え、協力できる子ども
- 何故だろうと考え、物事に疑問を持つ子ども
- 自然に親しみ、愛することのできる子ども
- 人の話をしっかり聞き、自分の言葉で話せる子ども

2、施設運営の重点課題

- 保育内容の充実
- 郷土文化伝承の促進
- 保護者の多様なニーズに合わせた子育て支援
- 風の子農園運営
- 食育指導の充実
- 地域との交流の充実
- 職員の資質向上

3、評価項目と取組み状況

評価の基準

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組んでいるが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

自己評価項目		評価	取組み状況
1	保育内容の充実	A	<ul style="list-style-type: none">・七夕まつり、小正月行事は、老人クラブの方々を招待し、年長組が交流を楽しんだ。・年長組が動物との触れ合いを楽しみたいと、農業高校、カウベルなどで動物に触れ合う体験を楽しんだ。またそれを、園内の行事で小さい子たちとの遊びに取り入れたり、発表会などでイメージを膨らませ興味や関心を膨らませ活動を広げた。・保育日誌のエピソード記述では、子どもの姿の読み取りや保育の振り返りをする中で、子どもの気持ちに寄り添った保育の実践につながった。・保育体験や面談を行いながら、一人ひとりの家庭環境や発達をしっかり捉え共有し保育に取り組んだ。
2	郷土文化伝承の促進	B	<ul style="list-style-type: none">・地域に伝わる「鬼剣舞」を年長組の保育に取り入れ、運動会で披露した。

3	地域の多様なニーズに合わせた子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・父母の勤務状況や子育て家庭事情に合わせて延長保育、一時保育、障がい児保育など保護者のニーズに応える。 ・町関係・専門機関との連携を密にしながら、よりよい子育て環境を提供していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・延長保育・障がい児保育・一時保育・病児保育・療育教室を行った。保護者支援研修、虐待研修、ペアレントトレーニング研修、アレルギー対応研修等様々な研修に参加しながら、保護者対応には担任以外の職員も入り面談を行い、それぞれの分野で専門職を活かし対応した。 ・関連機関との連携を図り、他機関や職員、保護者間での共有や共通理解を図り対応した。
4	風の子農園運営	<ul style="list-style-type: none"> ・畑活動では身近な自然に触れながら、手・足・体・頭を使って働くことを喜び、食べ物に対する感謝の気持ちを育てる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・4.5歳児を中心に種まきや水かけ、草とりをしながら生長を観察する中で、野菜の違いに気づき収穫する喜びを味わった。
5	保育園食育指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園における食育を「食を通じて、健やかな心と身体の健全育成を促す」ことに位置づけ一人ひとりの「食を営む力」を育む。 ・畑の野菜でのクッキングなど保育とのかかわりの中で食べることや命への関心を高める。 ・アレルギー児への対応として保育士・栄養士・看護師が情報共有し食育支援を進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・畑で収穫した野菜を使い、何を作りたいか話し合いをし、担任や栄養士と一緒にクッキングをおこなった。料理を作る過程を見ることで子どもたちは興味を持ち、食への関心を深めた。 ・栄養士、調理員は、毎日のように交代でクラスを回り、食事状況を見て歩き、食育指導ができた。 ・アレルギー児へは、除去代替食連絡帳を活用することで、保護者と園と情報共有をおこない食事支援をおこなった。
6	地域との交流の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な人たちと交流しながら、思いやりや優しさなどの心の発達を促す。また、地域の隠れた人材を発掘し保育に生かしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで中止していた老人クラブとの交流は、南方地区センターに場所を変え年長組が行った。夏休み保育体験は、感染症予防の為に今年は見合わせた。しかし、水沢農業高校へ動物の触れ合いに行き学生と交流することやハーバリウム作りで高校生と触れ合うことを楽しむことができ少しずつ交流の再開ができた。
7	職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「たくましい子を生み育てる保育」の実践と研究を進める。 ・自己評価の学習・実践・振り返りを通して保育の質の向上を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム研修のまとめの時期で、4園の研修の取組み内容を職員間で見合い研修を深めていった。 ・保育日誌は、エピソード記述を用い、子どもの感動・気づき・葛藤などへの寄り添いや保育の関わりの振り返りとなり、次の保育の手立てへとつなげた。 ・園内研修として、人権擁護のためのセルフチェックリストを活用しながら、一人ひとり自身の振り返りをおこない保育の確認をした。また、ペアトレで発達障がい児の対応の研修をおこない職員の資質向上につなげた。